

今泉賽の河原例大祭

多彩なイベント

祖先供養と仏供養を目的に今泉賽の河原講中運営委員会が主催する今泉賽の河原例大祭が6月23日(土)に行われました。

例年は雨の日が多く、今年も雨が時々降り降る肌寒い日となりましたが、霊場には地元をはじめ、多くの参拝者が訪れ、色とりどりの衣装を身にまとった33体の地藏に線香やお菓子を供えたり、手を合わせて先祖の霊を供養していました。

運営委員会は、今年も霊場内の広場



先祖を供養する参拝者



横山ひできさん

できざまなイベントを企画しました。薄市小の合唱やなにもささ、薄市保育所の歌やダンス発表、中里三味線会による演奏や踊り、中里中吹奏楽部の演奏、ふるさと交流歌謡ショー、よさこいなどの芸能発表が披露されました。さらに今年には町のイメージアップ大使の横山ひできさんも応援にかけつけ、漫談ショーで参拝者を喜ばせていました。また、ビンゴコーナー、ドックくどもたちが参加して楽しんでいました。

おかげさまで1周年

「ピュア」オープン
1周年記念イベント

昨年オープンした町農産物加工販売施設ピュアがオープン1周年を迎え、6月21日(土)~22日(日)の2日間、記念イベントを開催しました。

開会セレモニーでは、同施設の出荷者協議会会長の田中恵津子会長が「おかげさまで1年となりました。昨年は売上目標を上回ることができた。これからもみなさんに良い品物を提供していきますので、よろしくをお願いします」と歓迎のあいさつをしました。

イベントには、中里保育所、薄市保育所、小泊保育



子どもたちの遊戯



ふるまいピュア鍋

所が応援にかけつけ、施設ごとに遊戯などを披露したあと、3施設合同での合唱で会場を盛り上げました。子どもたちの家族がカメラやビデオカメラを片手に声援を送っていました。

お昼に近づくると振る舞いコーナーを設置し、来場者には、加工施設でつくったみそと地元の山菜や野菜を材料につくった山菜鍋500人分を無料で提供しました。

目玉の本マグロ解体即売には、行列ができて、準備した25kgの本マグロ2本が即完売する人気ぶりでした。

竜泊ラインウォーク

霧の中からのスタート

竜泊ラインを観光資源として活用した観光振興を図ることを目的に、竜泊ラインウォークが、6月15日(日)道の駅こどもり「ポントマリ」をゴールに長短2つのコースで行われました。

このウォークには、町内外から100人が参加し、Aコース6kmには、ベビーカーでの親子連れ参加者がいました。Bコース12kmスタート地点の眺台付近は霧で景色が見えない状況で残念でしたが、少しくだると日本海が一望できました。

ゴール後は、メバルが入ったあら汁、おにぎり、イカのぼつぼ焼きとわた入りイカ焼きで疲れを癒しました。

最後は、恒例お楽しみ抽選会。道の駅で販売されるイカ生干し、塩辛、昆布、ワカメ、ホッケ、タコなど地元産特産品の詰め合わせなどを用意し、参加者たちは、自分の抽選番号が呼ばれるよう願っていました。



坂本台からは日本海が一望

今回青森市から家族で参加した渡部遼くん(9歳)と渡部晃くん(4歳)の兄弟は、両親と一緒にBコースの12kmを歩きました。2人は「振る舞われたメバル汁がおいしく、おかわりした。海が見えて気持ちよく歩いた。お楽しみ抽選会で1等が当たったのでうれしかった」と話し、2人ともまた参加したいとのことでした。

事故即応体制を図る

小泊漁港で海難救助訓練

海難事故発生時の迅速な対応、関係機関との連携を強化することを目的に中泊町沿岸訓練実施隊が6月6日(金)小泊漁港で海難救助訓練を実施しました。

開会では、同隊の佐藤代表が「毎日の操業中、参加していただきありがとうございます。漁獲の低迷、燃油・資材の高騰で経営が厳しくなっている。そのため無理な操業も考えられる。幸い小泊地域で悲惨な事故はないものの、大きな事故はいつ起こるか分からない、この訓練が大きな成果になることを期待する」とあいさつしました。



救助ボートが遭難者を救助

この日の訓練は、小泊沿岸の離島で釣り客が急な時化で帰れなくなり、救助を求めているという設定で行われました。

対策本部の設置に続く、孤立者救助訓練は、離島に見立てた漁船に居る釣り客5人を救助するもので、小型救命艇で2～3人ずつ2回に分けて離島から沖に待機する救出船に搬送し、小泊港に帰還する内容で行いました。

また、漁協職員や婦人部による応急手当訓練、AEDを使用した心肺蘇生法、救命胴衣着用推進を宣言し、安全操業への意識向上を図りました。



遭難者が無事救助されて拍手